

西天竜幹線水路 円筒分水工群

地域の宝用水路と分水工

西天竜幹線水路から水を分けるために設けられた分水施設群。水田の面積に応じた穴の数により公平な水の供給ができるようになった。

現在、円筒分水工が35基活用されており、大小の分水を加えると実に83基に上るとされる。

2006(平成18)年に土木学会選奨土木遺産に認定された。



幹線水路の周辺に点在する分水工の一つ



水路の完成を祝して建立された、高さ8mの西天竜開田記念碑

information

□ アクセス

(分水工)

伊北ICから5km
車→10分

□ 所在地

辰野町、箕輪町、
南箕輪村、伊那市



西天竜幹線
水路とは

散水の
しくみ

1906(明治39)年に関係市町村が天龍用水路期成同盟会を結成。以来22年の歳月をかけ、1928(昭和3)年に完成した。

以前は段丘上ほぼ全ての土地が、樹林と桑畑であった。水路完成後は、幹線水路東側から国道153号線の段丘上が一面水田となった。

標高650mから915mまで、ポンプと送水管で水を吸い上げ、いったん水槽に貯められた水が、大小の送水管を通り畑へと散水される。



(国土地理院の数値地図50000(地図画像)を使用)